

北大経済学部 同窓会報

Hokkaido University
Faculty of Economics

第38号



発行者
北海道大学経済学部
同窓会

発行日 2022年9月1日

TEL & FAX (011)706-4113

Email dosokai@econ.hokudai.ac.jp



Photo by Tutumi



上野昌美同窓会長が退任されました —15年間ありがとうございます—

平成30年度 卒業・修了祝賀会 同窓会入会式



窓会報の広告にも各所に働きかけていただき成果を上げられていました。こうした上野会長のご尽力に深く感謝するとともに、その功績を北海道大学、経済学部の歴史に沿って振り返りたいと思います。

- 平成18年 学部長 井上久志先生 前年の17年に会計大学院が設置された
- 平成20年 学部長 町野和夫先生 23年5月に地域経済経営ネットワーク研究センターが設立された
- 平成24年 学部長 吉見 宏先生 この年より北海道大学ホームカミングデーが始まる

上野会長は平成19年秋に前会長伊東孝氏を引き継ぎ会長に就任されました。今年で15年の長きにわたり経済学部同窓会を牽引してこられました。学内行事や重要な会議への出席はもとより、同窓会報の広告にも各所に働きかけていただき成果を上げられていました。こうした上野会長のご尽力に深く感謝するとともに、その功績を北海道大学、経済学部の歴史に沿って振り返りたいと思います。

- 平成28年 学部長 町野和夫先生 29年に経済学部・経済学研究科は経済学部・経済学院・経済学研究院に改組された
- 平成30年 学部長 平本健太先生 この年より会員資格が変更され在校生も同窓生となる
- 令和4年 学部長 久保田肇先生

以上のように上野会長在任中に5名の学部長が就任されました。同窓生にとっても卒業祝賀会で同窓会長として挨拶されてきた上野会長を記憶にとどめている方が多いのではないのでしょうか。

平成24年に始まった「北海道大学ホームカミングデー」は、部局同窓会独自に行っていた各種イベントなどが合同で行われるようになりました。それに対応するように26年には地域同窓会「ほっかいどう同窓会」が設立され、28年には、従来の北大連合同窓会を引き継いだ全学同窓会である「北海道大学校友会エルム」が発足し、上野会長はその理事としても活躍されました。

大きな変革としては、平成30年の会員資格の変更があります。これまでの卒業生のみから学部及び大学院の在校生に同窓生を拡大し、同窓会としての活動が大きく変わっていきました。

上野会長は同窓会組織のこうした大きな変革期に強い指導力を発揮され経済学部同窓会を率いてこられました。今一度深く感謝の意を表したいと思います。



この4月より経済学部長／経済学院長となった久保田です。今後ともよろしくお願い致します。私は2000年4月に北海道大学大学院経済学研究科に赴任して以来22年間が過ぎ、今は23年目を迎えたことになりました。赴任以来、北大経済も会計専門職大学院の開設、公共政策大学院への参画、経済学研究科の経済学研究院と経済学院への分離、そして、国際食資源学院への参画等があり、この22年間で北大経済も社会環境に応じて大きく変わってきました。また、将来的には、大学全体の大学院の1学院化といった改革も控えております。

私自身は北大経済の卒業生ではありませんが、留学先の大学がアメリカ、ニューヨーク州の北西部あるロチェスター（Rochester）という町にあるロチェスター大学というところでした。そこで3名の北大経済同窓生と知り合う事になりました。

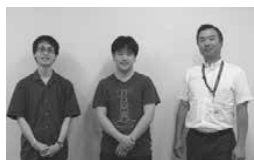
まず板谷淳一先生（北大名誉教授、小林ゼミ）についてですが、北大経済の助手の時に、ロチェスター大学へ留学され、その後帰国され、小樽商科大へ移られました。そして再度また在外研究として来ておられていた時に会いました。ロチェスターではコースワークを進めて行く上でのアドバイスを貰ったり、一緒にテニスをしたりと1年半の間に大変にお世話になりました。特に記憶に残っているのが、板谷先生、奥様、娘さん、私の日本人同級生と私の5名で奥さまの運転でロチェスターからナイアガラの滝へ観光に行ったことです。私が北大経済に赴任する前年に小樽商大から北大経済に移られて、その後は北大経済では同僚として親しくさせて頂きました。

次に、片岡孝夫先生（早稲田大商学部教授、内田ゼミ）ですが、私より学年が2年上で、既にコースワークを終えられていたこともあってコースワークに関するアドバイスを頂いたり、また、様々な機会にご自宅で開催された食事会にも呼んで頂いたりして、お世話になりました。先生は北大経済卒業後に筑波大学の社会工学の大学院に進学され、その後ロチェスター大学に留学されました。ロチェスターという町は気候が札幌に似ていて、特に冬は寒くて雪が多いのです。私は横浜出身でそれまでに寒冷地には住んだこともなく、冬場はダウンジャケットが必須だったのですが、東京出身の片岡さんが厚手のセーター一枚しか着ていなくて、なぜなんだろうと思っていました。実は北大経済出身で札幌で生活した事があり、寒さには慣れているというのを後で知りました。

最後は吉原直毅先生（マサチューセッツ大学教授、唐渡ゼミ）です。ちょうど博士論文を執筆していた1996年の春に吉原先生が大阪大学から短期間の在外研究として、ロチェスター大学で社会選択論を専門としていたウィリアム・トムソン教授の元に来られました。私のアパートに一人分の空き部屋があったので、私が帰国する日の数日後までそこに滞在されていました。吉原先生は帰国後に大阪大学から北大経済に移られたのですが、私が北大経済に赴任する前年の1999年に一橋大へ移られたので、北大経済では同僚とはなりません。その後、一橋から北大生にとってクラーク博士の母校である、マサチューセッツ大学アムステルダム校に移られています。

因みに、私は日本帰国後の1997年4月から滋賀大学経済学部に着任したのですが、前学部長／学院長の平本健太先生も滋賀大学経済学部に1997年3月までおられ、北大経済に戻られました。私もその後北大経済に着任することになるとは思いも寄っていませんでした。

以上が私と北大経済同窓生との記憶に残る出会いの話でした。研究院長・学院長・学部長としてのわたしの任期はこの4月に始まったばかりですが、同窓会の皆さまにおかれましては、ますますのご支援・ご協力を頂戴できれば幸甚でございます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



北海道大学の歴史とともに、
北大生協は
歩み続けています

北大生協の3つの使命

- ①北大生協は「北大の勉学・教育・研究の発展に安心と信頼のサービス」で貢献します。
- ②北大生協は「学生・院生の自立・成長と学内構成員の協力・協同の促進」に寄与します。
- ③北大生協は「持続的発展可能な地域社会・国際社会の実現」に向けて力をつくします。

北海道大学生生活協同組合

札幌市北区北8条西7丁目

Mail: seikyou@coop.hokudai.ac.jp

北大生協ホームページ: <https://www.hokudai.seikyou.ne.jp/>

1947-2022



北海道大学生生活協同組合



北大の近況 —令和4年度から始まったこと—

北海道大学 理事・副学長 吉見 宏
(大学院経済学研究院 教授)

1. 第4期中期目標期間スタート

令和4年度は第4期中期目標期間（6年間）の最初の年になります。この、「中期目標・中期計画」という考え方は、国立大学が法人化された時に導入されたもので、6年間の目標・計画（国民との約束）を立ててそれに沿って運営するという考え方に立っています。

新たな計画が始まったからといって、学外からみえる北大の姿や、学生の生活や行動が、すぐに何か大きく変わるわけではありません。しかし、これから先、北大が変わったな、と感じることがあれば、それは立てておいた中期目標・中期計画が影響を与えていた、ということが多くあるのです。

2. 2022 THEインパクトランキングで世界10位

第4期の中期目標・計画には、文部科学省が各大学に求める義務的な項目以外に、特に独自の目標を立ててもよい（立てなくてもよい）ことになり、北大はSDGsを独自目標に据えました。

そのSDGsに挙げられた項目を評価指標とする、2022 THE（タイムズ・ハイヤー・エデュケーション）インパクトランキングで、北大は総合ランキングで世界10位（国内1位）、個別項目の「飢餓」について世界1位となりました。このランキングは、大学が社会にどのようなインパクトを及ぼしているかを評価したものです。THEは、教育や研究を評価項目の中心とした大学ランキングも公表しており、これとは異なります。しかし、世界的評価で日本の大学がベストテン入りするのは初めてであり、大変名誉なことであることに間違いはありません。

寶金総長は、記者会見で、これは本学がもうすぐ150年になる歴史の中で起こったことであり、これまで本学の先達たちが築き上げてきた伝統と努力が、現代のSDGsというモノサシで測ると高く評価されたと考えるべきと説明しました。すなわち、北大OB・OGの皆さんが北大の社会へのインパクトをつくり出してきたといえるのであり、一朝一夕にできたことではありません。

3. 社会連携事業もスタート

社会的インパクトというのは、言い換えれば大学の社会連携です。それは必ずしもSDGsの項目とは限りませんが、北大は長い歴史の中で、自然と「社会連携」を進めてきた大学だったといえるのでしょう。



THEランキングの記者会見で（左から吉見、寶金総長、横田理事・副学長、阿部副理事）

ところが、これまで北大には「社会連携」を看板にした部署はありませんでした。この4月から、本部の事務組織として、「社会共創部」が設置され、その中に「社会連携課」も新設されました。規模も小さく、まだまだ第一歩のスタートです。

社会連携は、教育という「ひとづくり」、研究という「知づくり」の2つの事業に加えて、すでに大学が有しているヒト、知、モノといった財産を、社会に提供していく第3の事業です。具体的には、北大のキャンパスは多くの市民・観光客に利用されていますし、教員はしばしば国や自治体の委員会等の委員として社会に貢献しています。もちろんこれらも、社会連携の1つの形なのです。

4. 創基150周年に向けて

2026年、北海道大学は日本の国立大学で初めて、創基150年を迎えます。北海道大学のルーツは、言うまでもなくクラーク博士が初代教頭を務められた札幌農学校にあります。そして、札幌農学校は当初から「学士」の学位を授与しました。つまり、今で言う「学部卒業」の資格を認めた学校でした。

東京大学が学士学位の授与権を認められたのが札幌農学校より2年遅い1878年であり、このことが、北大が東京大学よりも長い歴史を持つ「大学」となっている根拠です。

今後、2026年に向けた記念事業が進められていきます。同窓生の皆様には、記念事業にもご参加いただき、北大の長く輝かしい歴史を次の世代に伝えるバトンの渡し手を担っていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

札幌の家具付き賃貸ならノースステイ

North Stay

North Stay は、札幌でウィークリー・マンスリーマンションや家具家電付の賃貸マンションを運営しております。ご旅行や出張など、お客様のあらゆるシーンにあわせて、快適な居住空間をご提供させていただきます。

〈ノースステイホームページ〉
www.north-stay.com/

札幌市内トップクラスの情報量

札幌オフィス検索

札幌オフィス検索は、札幌の賃貸事務所・オフィスなどへ移転をお考えのお客様に最新の物件情報をご紹介します。ご紹介物件数・更新頻度ともに札幌エリアではトップクラスです。仲介手数料半額による格安なコストでの移転をサポートします。

〈札幌オフィス検索ホームページ〉
<http://of-sapporo.jp/>

賃貸生活

株式会社 賃貸生活

代表取締役 佐藤 有

こちらのフリーダイヤルまでお気軽にお問い合わせください

【ノースステイ受付窓口】 【札幌オフィス検索窓口】

フリーダイヤル
☎ 0120-277-271 011-206-8996

〒060-0062 北海道札幌市中央区南2条西9丁目1-2 サンケン札幌ビル2F
TEL 011-206-8996 / FAX 011-206-8127

□ 賃貸生活のホームページ
www.on-1.net

ゼミ紹介

岩田ゼミ

企業行動論 岩田 智 教授

ゼミの活動

私のゼミは開始してもう20年以上になります。学部の第1期生は、前任校在職中に選考をお願いしますという連絡が来ましたので、面接などもできず志望理由などを書いてもらった書類のみで選考しました。少し不安でしたが、学生もどんな教員なのかわからない状況でゼミに応募するのはもっと不安だったのではないかと思います。幸い応募してくれた学生はゼミ活動に熱心な学生ばかりで、ほとんどの学生と今も交流が続いています。その後、学部のゼミ生に加えて大学院のゼミ生も入ってくるようになりました。

そうしたゼミ生とは、ゼミの時間以外にもゼミ合宿、ゼミ旅行、飲み会、ジンパなど、さまざまなイベントも行いましたが、コロナ禍の今となっては懐かしい思い出です。卒業や修了後のゼミ生との交流の程度はさまざまですが、時々驚きの出会いがあったりします。学会出張の際に渋谷や横浜の駅で突然「先生」と声をかけられて振り返ると、ゼミの卒業生だったということがありました。あれほど人通り多いところで、そんなこともあるのかとびっくりし、しばらくゼミの思い出話をしたり、食事に行ったりしたこともありました。

ゼミ生の卒業や修了後の進路は、企業、官公庁、大学

などさまざまですが、企業に就職すると海外赴任（留学生は帰国）のケースも出てきます。私は企業行動論、中でも国際企業行動論の研究をしています。卒業生や修了生の企業を訪問し、企業の状況や従業員としての話を聞かせてもらったり、研究者となった修了生とは共同研究を行ったりすることもあります。ある意味、教えてもらう立場になったりする場合もあるわけですが、今後はそのような関係も大切にしながら、ゼミ生との関係を続けていきたいと思っています。



ゼミ生からのメッセージ

岩田ゼミインタビュー

□学部4年 川上陽平さん



岩田ゼミに入ろうと思ったのは、自分の今後を考えて、いろいろ海外に目を向けてみたいと思い、国際経営（企業行動）を専門にされている岩田ゼミを選びました。将来海外に事業展開している会社に入りたいと思っていたということもあります（SMBC日興証券に就職予定）。

授業は、コロナ禍以降はゼミも含めてほぼオンラインでした。やはり直接ゼミ生と会ったほうがよかったと思いますが、このような状況なので仕方ないです。ただ自分は1年の時に会った友人がいたり、運動系のサークル軟式野球に所属していたりしていたので、その繋がりもありました。練習はほとんど皆ではできませんでしたが…。

将来の希望は、社会人として自分の言ったことに責任を持つ、そんな人間になりたいと思っています。もちろん海外にも行ってみたいです。実は海外どころかほとんど北海道からでたことがないのですが！ですからこれからが楽しみです。その前に卒論の制作があります。岩田先生としっかり相談して書いていこうと思っています。

□博士1年 長桶和也さん



私は修士課程から岩田ゼミに所属しておりますが、研究者になるべく博士号の取得を目的に岩田ゼミに入りました。岩田ゼミは企業の国際的な活動について様々な側面から研究しております。入学後、コロナウィルスの影響もあり非対面でゼミを行ってまいりました。今は対面でゼミが行えていますが、非

対面でのコミュニケーションの難しさを痛感しました。

博士課程では、自分で研究の進捗を管理し、必要なタイミングでゼミを行っております。当初はこのスタイルに不安を抱きましたが、「研究者」になるのであれば、自分の研究の進捗を管理して、研究を行っていくことが重要であり、その予行演習を行っていると理解しました。今はもうこの不安は払拭され、研究に邁進しております。

将来は大学教員として、研究による社会貢献とゼミを中心とした教育によって国際的な人材を育成したいと思います。また、学問を通じて生涯の友を得られるようなゼミを創り上げることが目標です。

卒業生からのメッセージ

北海道大学パートナー就任にあたって

□JEAN-PAUL SUSINIさん（平成18年修了 IPAG Business School, Associate Professor / Dean of International Accreditations）



I am very honored and excited by this proposition from Hokkaido University to become a member of the Ambassador Partner System (HUAP). I would like to express my gratitude to Professor Satoshi Iwata for considering my profile. I am currently an associate professor for IPAG Business School in

France, a nationally and internationally recognized institution. Every year, my school sends over 300 students abroad to study at 60 partner universities worldwide, in 50 different countries. I believe that I could be in the best position to promote Hokkaido University to international students willing to have a study experience in Japan. I am very grateful for this opportunity.

この度、北海道大学からアンバサダー・パートナー制度（HUAP）の一員になるという提案を受け、大変光栄に思っております。私のプロフィールを考慮してくださった岩田智教授に感謝いたします。私は現在、フランスのIPAGビジネススクールで准教授を務めていますが、本学は国内外から高く評価されています。毎年、私の大学では300人以上の学生を海外に送り出し、世界60の提携大学、50カ国で勉強させています。私は、日本での留学を希望する外国人留学生に北海道大学をアピールする最高のポジションにしていると信じています。このような機会を与えていただき、大変感謝しています。

岩田ゼミの思い出

□多田和美さん（平成22年修了 法政大学 准教授）



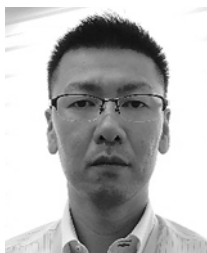
岩田先生には、2004年4月の修士課程入学から2010年3月の博士後期課程修了までご指導いただきました。この間、社会人院生として研究に四苦八苦する私を、温かく見守り、導いていただきました。

岩田ゼミの一番の自慢は、先生のお人柄そのままに温かく穏やかなゼミ文化です。不思議と、後輩のゼミ生たちもそのような人柄の方々が多く、皆で会うとホッとして温かい気持ちになったものです。そして、修了から10年以上経った今もそのゼミ文化は健在で、岩田先生はもちろん、ゼミの後輩の皆さんとも繋がっており、何かあったら連絡を取り合い、相談させていただいたり、他愛無いおしゃべりをさせていただいたりしています。その何とありがたく貴重なことか！

岩田先生とゼミを通して、研究面はもちろん人間関係でも人生の貴重な財産をいただくことができました。コロナ禍でしばらくお会いできず、お電話やメールでのやり取りが続きましたが、久しぶりにお会いできる機会を楽しみにしております。

大学院生時代の思い出

□中川 充さん（平成24年修了 日本大学 准教授）



私がいた当時、岩田先生のゼミには、学部だけではなく、大勢の大学院生も在籍していました。大学院のなかでも比較的大学院生が多い方であったように記憶していますが、今になって思い出されるのは、むしろゼミ後の「個別指導」です。岩田先生の研究室で、綺麗に整えられた書籍が並ぶ本棚に囲まれながら、毎回数時間にわたりご指導をいただきました。研究テーマひとつを決め

るにしても、その時の流行や表面的な理解に流されることなく、物事の本質的な部分へしっかりと目を向けるよう導いてくださった時間は、その後の研究者人生において私の貴重な財産となっています（その時は早く帰りたいかたがたかもしれませんが…）。

現在、まがりなりにも大学の教員として学生や院生の指導を担当していますが、意識してか、それとも無意識になのか、北大で岩田先生にご指導いただいた際のご指摘やご助言が、自然と自分の口から出てくることがあります。今になって思うことではありますが、研究自体はもちろん、教育・研究に勤しむ者として、仕事に向き合う姿勢を育んでいただいた大学院時代でした。学部・大学院を問わず、さまざまなフィールドでご活躍されているOB・OGの皆さんの中にも、私と同じように感じられている方が大勢おられるのではないのでしょうか。

時間が過ぎるのは早いもので、私自身も、気がつくとい自分が入室した頃の岩田先生に近い年齢になってきました。諸々の仕事において、いわゆる脂の乗ってくる（はずの）年代です。そう考えると、その時期にとっても長い時間をかけて丁寧な指導をいただき、ある意味では岩田先生の貴重な時間を奪ってしまったのかもしれませんが。私だけではなく、すべての学生・院生の指導に、惜しみなく時間を費やしてくださった先生にあらためて感謝しつつ、反省の気持ちも込めて、少しでも御恩をお返しできるよう、これからも教育・研究に努めたいと思います。

留学時の温かい思い出と貴重な体験

□譚穆さん（平成24年修了 中国一汽トヨタ自動車）



私は、2008年に中国の大学を卒業後、学部ゼミの研究生を経て大学院に入学しました。北大の留学生サポート体制、指導教授、先輩のおかげで、半年間ぐらいで日本での学習と生活に慣れることができました。大学院の入学試験合格後、学部ゼミの同級生たちからもらったお祝いとジョークの書かれたノートは、私の宝であり今もずっと大切にしています。

大学院の研究室では、異文化を体験しながらすぐに友人をつくることができました。当時の合同ゼミの学生は、日本人4名、フィンランド人、タイ人、中国人各1名で、毎合同ゼミで先生と活発に議論した後、酒井君、深山君などの日本人学生が、私たち留学生をサポートし、いろいろな話をすることもできました。

現在は、中国にある日本の自動車企業で仕事をしています。2012年に大学院を修了してからもう10年になります。北大を再訪したいと思っていますが、近年はコロナの影響もあり母校に戻る機会をもてないのが残念です。北大での生活を思い出すと、留学時の温かい思い出と貴重な体験が蘇ります。大学院時代から現在に至るまで大変お世話になっている岩田先生をはじめ関係各位の皆様改めて感謝申し上げます。

懐かしの小林(好宏)ゼミ



小林 好宏先生

北海道における小林先生の軌跡

小林好宏先生が北海道大学の教壇に立たれたのは、1965年のことです。北海道に生まれ、札幌東高校、北海道大学経済学部、北海道大学大学院経済学研究科と進み、さらに山口大学での3年間の教員生活を経た後でした。1998年まで北海道大学で教鞭をとられ、多くの学生を世に送り出しました。退職後は、札幌大学経済学部教授、北海道武蔵女子短期大学学長を歴任されました。先生は、学生時代からマルクス経済学をはじめ、シュンペーターやアルフレッド・マーシャルなどの著作を読むなど幅広い勉強をしていたそうです。大学院では、マクロ経済学の早川泰正先生に師事し、ケインズ経済学を含めてマクロダイナミックスと呼ばれる経済変動と雇用などの問題に取り組まれました。その後、山口大学講師となった頃から「産業・企業」の活動に対する関心を深められ、北海道大学に戻られて以降、産業組織論の分野に関する著作を数多く執筆されました。その代表作であり、集大成といえる著書が北海道大学図書刊行会から出版された『企業集団の分析』（1980年）です。

小林先生の学問的な関心はこれにとどまらず、公共選挙論、産業政策・サービス産業論、法や制度の経済分析など幅広い分野での研究を行い、多くの著書、論文を執筆されました。このように特定の分野だけでなく、広い分野に関心を持った研究者でした。また多くの啓蒙書も書かれています。『サービス社会を読む眼』（中央経済社、1988年）等の著作の他に、北海道新聞に経済問題を解説した連載をまとめた本など一般に向けた本も書かれています。

小林先生は、北海道、札幌市、北海道開発局などの多くの公職に就かれていました。行政に対する貢献も大きなものがありましたが、その経験を元に『北海道の経済と開発』（北海道大学出版会、2010年）など北海道経済に関する著作もあります。

これらは小林先生の北海道に対する思いを表したものといえます。

本当に誠実で学問が好きで先生でした。亡くなられた半年ほど前に入院した病院のベッドの上で論文を執筆していたという話や病状が重くなってからも行政の会議に車椅子で参加したという話も聞いています。

そのゼミからは、次期同窓会長である板谷淳一先生をはじめとして何人も研究者、道庁などの行政や企業で働く多くの卒業生を育てられました。

このように小林先生は北海道に生まれ、北海道を愛し、北海道に貢献した研究者、教育者といえます。



学生(昭58,59年卒)、大学院生とクラーク像の前で

小林先生の思い出

私が小林ゼミに入ったのは、大学入学当時から大学院に進むことを考えていて、優れた研究者に就きたいと思っていたからです。小林先生のことは学部に入る前から知っていたこともあります。

私が入った当時の小林ゼミは、午後3時頃から始まり、7時、8時まで行うというのが通常でした。テキストは、産業組織論の論文集、ケインズの一般理論、パシネッティなどの成長論、パティンキンの著書などすべて高いレベルの洋書でした。小林先生はタバコを吸いましたのでゼミの終わり頃にはその煙が充満しているときもありました（その後、換気扇が取り付けられました）。内容の理解はともかく、英語力は鍛えられました。小林ゼミのOBに卒業後に偶然、出会ったときに、海外勤務でそのときに培った英語力が役立ったと言う話を聞きました。

小林先生は、スポーツでは野球も好きで、研究室で原稿を書きながら野球のラジオ放送を聞いていることもありました。一つ思い出としてあるのは、小林先生が40代前半であったときに学部のゼミ対抗のソフトボール大会がありました。その大会に小林先生も参加し、セカンドを守ることとなりました。決勝戦で試合が優位に進みましたが、ある回にピンチが訪れました。

平澤 亨輔（昭和52年卒）

そのときにセンターに抜けるかというゴロを小林先生は見事に捕球し、アウトを取りピンチを逃れました。写真は、その大会で優勝の賞状をもらう小林先生です。

ゼミでは飲み会も多くあり、小林先生は忙しい中でよく参加されました。このように勉強ばかりでなく、いろいろと楽しいゼミでした。それがいまでも続き、コロナ以前は、私の世代を中心に2ヶ月に一度OBで集まる会を開いていました。

大学の教員になった後、あるとき所属している学会で、台湾で研究会を開くという話がありました。私は参加しようかどうか迷っていたときに、小林先生に「参加するのが当然だ」といわれ、参加しました。そのときに多くの都市経済の研究者に会うことができ、その後の研究に大いに役立ちました。

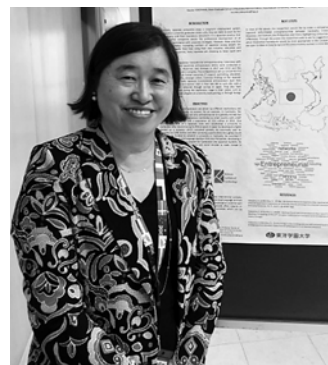
このほかにこの短い文では書けないことはいろいろあります。本当に私の研究者としての指針となってくれた先生でした。



学部のソフトボール大会で優勝して

Girls be ambitious !

横山 和子（昭和53年卒）



ポルトガルで開催された国際学会にて
（2018年）

振り返ってみると、小林ゼミで過ごした大学時代は人生の探索期を過ごした時期でした。当時、小林ゼミには毎年一学年に女子学生は1人しかおらず、自ずと独立心が強くなりました。当時経済学部生は1学年に160人。そのうち女性は5人のみでした。当時は男女雇用機会均等法が制定される10年ほど前で、女子学生は就職活動に先立ち事務室に呼ばれ、公務員試験を受けるなど自助努力で就職先を見つけるように言われました。

小林先生はリベラルな考えをお持ちで、クラーク博士のBoys be ambitious ! という言葉のboysにはgirlsも含まれる。それゆえ、Girls be ambitious ! の心意気で人生に臨みなさい、とおっしゃっていました。小樽に生まれ育った私は素直に先生の言葉を実践したように思います。

経済学部にあった国費留学試験には最終面接で不合格になりましたが、ロータリー財団の奨学金を得て、北大卒業後に米国インディアナ州立大学大学院に進学し経営学修士（MBA）を取得しました。帰国後、残念ながら札幌でも東京でも就職先を見つけることはできませんでした。当時、MBAを持つ女性の部下を持ちたいという人はいないと言われました。就活中に外務省が国際機関に若手国際公務員を派遣するJPO試験を受

験、合格したことから、私は国連のキャリアを選択しました。ジュネーブのILO本部、UNHCR本部に各2年、ローマのFAO本部に5年、計9年間国連で働きました。国連での仕事に慣れるに従い、自分の国で働きたいという考えが芽生え、35歳の時に東京都文京区にある東洋学園大学に職を得ました。大学では経営学部にも所属し、人的資源管理の担当教員として30年間フルタイムで働きました。その間に結婚し、子供も育てました。現在は非常勤講師として大学で教える傍ら、International Career Development（株）のCEOとして人材育成の仕事に取り組んでいます。

私の人生はGirls be ambitious ! を実践している人生であると実感しています。小林先生から教えていただいたGirls be ambitious ! という言葉をこれからも大切にしたい、と考えています。

父の想い出

小林 しおり（北大法学部助手）

とにかく仕事の好きな人でした。平日は夜10時頃帰宅、遅い夕食の後、書斎にこもって仕事、朝はギリギリまで寝ており、昼夜逆転に近い生活でしたので、幼い頃は週末にしか顔を合わせることがありませんでした。公務員宿舎を転々とする生活が続きましたが、狭いながらも常に書斎は確保されていました。書斎の様子は、一度でも研究室に入ったことのある方なら想像がつくでしょう。机の上は原稿が書けるギリギリのスペースを残して書類や本などが絶妙のバランスで積まれており、床の上にも絨毯が見えないくらいに原稿やファイル、茶封筒などが散らばっていました。でも、他人には散乱しているように見えても、本人にはどこに何が置いてあるのかわかっているらしく、素晴らしい記憶力だと思うのですが、家族でトランプ（神経衰弱）をして勝つのはいつも子供の方でした。

教員の仕事の喜びの一つは立派に成長した教え子の姿をみることと思いますが、その点において父は恵まれていました。退官記念パーティーで、母が「研究者としてどうだったのかはわかりませんが、こうして皆さんの立派な姿を拝見すると、教育者としての才能はあったようです」と挨拶していたことを覚えています。卒業後も付き合いの途切れないゼミ生も多く、仲人をさせていただく機会も度々で、晩年まで教え子との付き合いは続いていました。

母の希望で、父の葬儀の仕切りは親しい教え子の皆さんにお願いしました。大変心強くありがたく心に刻まれました。紙面を借りて、改めてお礼申し上げます。



今も残る父の本棚

コラム

小林先生の 人柄を偲んで



全体編集
平澤 亨輔

北大経済学研究科の大学院の先輩によると、小林先生はよく「人の欠点は大目に見る」、「弱いものの味方をしなくてはいけない」と言っていたといいます。この言葉に小林先生の人柄がよく現れていると思います。ゼミで先生が学生に厳しい言葉を言っている姿を見たことはありません。ゼミ生は卒業時にゼミ論を提出しなくてはならなかったのですが、多くの学生が提出しなくてもそれに対して何も不満を言うことはありませんでした。このような先生でしたから多くの学生に慕われていました。

小林先生の幅広さは学問ばかりではありません。趣味の一つに合唱がありました。札幌東高校は小林先生の時代には合唱が盛んであったようです。小林先生も高校時代から合唱部に参加したようで、大学入学以降も合唱を続けられていました。そして札幌放送合唱団に所属するほどでセミプロレベルの実力でした。カラオケで小林先生が歌うと皆その迫力に驚いたものです。奥様とも合唱のサークルで知合ったとのことでした。

小林先生は、若い頃はお酒もタバコも嗜まなかったそうです。お酒を飲むようになったのは、ある世代のゼミ生がよくコンパをしたのでそれから飲むようになったそうです。ゼミのコンパでは仕事があったのにもかかわらずほとんど参加していました。

本当に多才で幅の広い先生でした。

受賞の喜びと 感謝の思い

ユーザーの心理的所有感が知覚価値に及ぼす影響
ーデジタル・サブスクリプション・サービスを対象としてー
SMBC信託銀行 杉 本 千 優
(令和4年卒)

この度は、特選論文経済学部賞・同窓会長賞最優秀賞をいただきまして、誠にありがとうございます。このような名誉ある賞を頂いたことを大変嬉しく、光栄に思っております。以下、簡単ではありますが、卒業論文の内容の紹介をさせていただきますと思います。

本研究の目的は心理的所有感が消費者のサービスの知覚価値を認識する際に及ぼす影響を明らかにすることです。心理的所有感とは、法的な所有ではなく心理的な状態を指し、対象を「自分のものである」と感じることを特徴とする所有感覚を指します。本研究では、法的な所有を伴わないデジタル・サブスクリプション・サービスにおける心理的所有感が、消費者のサービス評価に及ぼす影響を分析しました。

本研究により、心理的所有感が高いほど、すなわち消費者がサービスを自分のものだと思う程度が高いほど、サービスがもたらす楽しさが知覚価値に与える影響が高くなることが明らかになりました。そのため、企業側が「楽しさ」を高めるマーケティングに加えて、消費者に高い所有感を与えるマーケティングを行うことの重要性を提示しました。

本研究で学んだことは、新規性の高いことに挑戦する重要性です。本研究は知覚価値に影響を及ぼす要因を心理的所有感という概念を導入して分析したという点において新規性が高く、先行研究が少ないことは執筆時の困難の1つでした。しかし、この困難を乗り越えて研究を進めたことで、従来の研究と異なる結論を導出できたと考えております。変化の多い時代において新規性の高いことに直面する機会が多いと考えられます。社会人として働く上でも新しいことを学び挑戦する姿勢は持ち続けていきたいと思っております。

卒業論文の執筆にあたっては、多くの方々にお世話になりました。まず、指導教員である坂川裕司教授にはご多忙の中、非常に多くのご指導を賜りました。次に同じゼミの皆さんからは、進捗報告時に、数々の質問、アドバイスをいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。最後になりますが、同窓生の皆様におかれましては、就活支援・物資支援などを通じ多大なるご支援を賜りましたことを深く御礼申し上げます。ありがとうございました。



行政の電子化は汚職を減らすか

富士通株式会社 和 泉 輝
(令和4年卒)

この度は、特選論文経済学部賞・同窓会長賞優秀賞に選出して頂き誠にありがとうございます。大変嬉しく、また光栄に感じております。

今回私は、「行政の電子化は汚職を減らすか」というタイトルで論文を執筆致しました。本論文の目的は、近年世界中で加速化している行政の電子化が、各国の汚職減退に及ぼす効果についての知見を広げることです。汚職とは、政府役人による収賄や密輸といった不当な利益の獲得を指し、世界各国で現在でも憂慮すべき課題とされています。その中で行政の電子化は、システムの効率化や透明化を通じて汚職を減らそうとして注目を集めていました。そこで自分は、行政の電子化が汚職に与えるインパクトの大きさを左右する要因がないだろうか、という点に着目しました。それが明らかになれば、行政の電子化は反汚職施策としてより実用的になると考えたためです。以上を検証するため、世界各国の汚職と行政の電子化度合いをそれぞれ変数で表し、重回帰分析を行いました。その際、交差項分析を用いて、行政の電子化が汚職に与えるインパクトの大きさを上下動させる要因を探しました。結果、行政の電子化が汚職を減らす効果は中所得国において強まる、という結論を有意に示すことが出来ました。

この論文の執筆を通じて、自分で定義した問題の解決策をどのように有効的に主張するかという経験を得ました。私の論文作成は具体的には、当該分野の研究の限界や不足を見つけ出し、それをどう解決するか考え、論文として展開するというプロセスを辿りました。今回私は、世界の汚職という大きなテーマを扱いましたが、このプロセスは他の事柄にも通ずると思っています。私はこの春から企業での社会人生活をスタート致しました。まずはそこで、この経験を糧に精一杯励みたいと思っております。

振り返ると、ゼミの始まる大学3年時にコロナ禍が始まり、少なからず影響を受けました。それでも真摯に向き合い、多くの学びの場を提供して下さった樋渡雅人先生、共に切磋琢磨したゼミ生、その他全ての方々のおかげで晴れやかな気持ちで卒業することが出来ました。これからは社会人として同窓生の皆様の背中を追いかけ、力の限り歩んで参ります。

就 職 状 況

- 昨年度の卒業生もコロナ禍の中、オンライン中心の就職活動でした。こうした仕組み? も浸透してきて学生は応用力を活かし就職状況は変わらず好調を維持しているようです。ベンチャー企業や比較的新しい企業へのトライも目立ちます。
- 同窓会も今後よりいっそう在学生の就職支援のあり方を模索していきたいと考えます。卒業生のみなさまにおかれましても、さまざまな場で在校生に会われましたら、気さくに声がけし、相談にのっていただけたらと思います。北大生は東京や大阪などの学生たちに比べて少し「シャイ」なところがありますが、ぜひその持っている「力」を引き出せるよう、ご支援をお願いいたします。
- 就職率(就職希望者が分母)は昨年よりupし、学部が97.6%、修士が74.4%、会計大学院が88.9%、博士が87.5%となっています。(進学率は学部約10%、修士9%)

*** 学部 ***

【7名】 札幌市

【4名】 北洋銀行、北海道銀行

【3名】 日本生命、NTT東日本、国税庁札幌国税局

【2名】 日本政策金融公庫、東京海上日動火災、明治安田生命、富士通、トヨタ、三菱電機、北海道ガス、リオ・ホールディングス、大和ハウス、ニトリ、芙蓉総合リース、凸版印刷、財務省 北海道財務局、北海道庁

【1名】 あおぞら銀行、三井住友信託銀行、三菱UFJ銀行、SMBC信託銀行、東海東京フィナンシャル・ホールディングス、静岡銀行、京都銀行、苫小牧信用金庫、北海道信用金庫、大和証券、丸三証券、第一生命、住友生命、JCB、みずほリース、パナソニック、三菱重工冷熱、エルムデータ、北海道味の素、三菱食品、ウェルファームフーズ、日本製鉄、日鉄エンジニアリング、日本製鉄、川崎重工業、三菱重工業、大林組、JFEエンジニアリング、東洋エンジニアリング、東鉄工業、住友化学、東洋製罐グループホールディングス、コスモイニシア、アサヒビール、いなば食品、ビックルスコーポレーション、セイコーウオッチ、NECネットワーク・センサ、タクマ、不二越、DNPデジタルソリューションズ、NTT、NTTドコモ、イオン、イオン北海道、コープさっぽろ、良品計画、セコマ、セブン-イレブン・ジャパン、エルム楽器、北海道電力、東北電力、北陸電力、中国電力、JR北海道、東日本高速道路、中日本高速道路、ロジネットジャパン、鶴丸海運、双日、長瀬産業、阪和興業、BuySell Technologies、ムトウ、丸紅、生和コーポレーション、ジェイアール東日本都市開発、野

村不動産、森ビル、アクセンチュア、大和総研、野村総合研究所札幌エリア職、ビジョナル、コムチュア、ビー・シー・エー、メトロエンジン、デジタルアイデンティティ、SCSK、JTS、BFT、オークネット、キットアライブ、アクティオ、税理士法人山田&パートナーズ、あずさ 監査法人、フューチャー、マッキンゼー・アンド・カンパニー、ネオマーケティング、KeePer技研、EY税理士法人、サイゼリヤ、星野リゾート、グレイシーズ、日本赤十字社、ベネッセスタイルケア、楽天、サツラク農業協同組合、イー・エム・シー・ジャパン、電通ライブ、パーソルキャリア、北海道厚生農業協同組合連合会、環境省、厚生労働省北海道労働局、国土交通省北海道運輸局、北海道厚生局、岡山労働局、防衛省陸上自衛隊、札幌管区気象台、静岡県庁、石川県庁、三重県庁、音更町役場、岩見沢市役所、登別市役所、横浜市役所

*** 修士 ***

【2名】 監査法人トーマツ

【1名】 東京応化工業、横浜ゴム、ByteDance、JX石油開発、Keyence、ゆうちょ銀行、中国建設銀行、中国人民保険集団、BOE、南京銀行、タスク、ホープス、富士通北海道電力、日本システム技術、日本IBM、VIVO、日立システムズパワーサービス、日本タタ・コンサルタンシー・サービスズ、J.A.M KONNEKTer、ホトマンダ、HUAWEI、アドヴィックス、Honor、Magic Tavern、ジブラルタ生命保険、DELOITTE、秋田銀行、ミネルバ税理士法人、KPMG税理士法人、税理士法人池脇会計事務所、資さん、北海道庁、石川県教員、経済産業省(キルギス)

*** 博士 ***

札幌青葉学院 北海道看護専門学校、北海道大学経済学研究院、長崎大学経済学部、宮崎公立大学、深圳大学、南京大学、北海道開発局

恩師の異動

令和4年3月

・永年、経済学研究院(経済学研究科)・経済学部の教育や研究に尽力された先生方が当大学を去られました。

教 授 園 信太郎(退職)

教 授 長谷川 光(退職)

教 授 米山 祐司(退職)→北海道大学経済学院非常勤講師等

教 授 韓 載香→法政大学経営学部 教授

教 授 代田 豊一郎→青山大学経済学部 准教授

准教授 後藤 允→東京理科大学理工学部 准教授

各先生方のいっそうのご活躍とご健勝を心からお祈りいたします。



同窓会サポート企業

SALAT 株式会社 サラト

■本 社

兵庫県姫路市北条宮の町172
〒670-0948
Tel.079-284-1380

■東京支社

東京都台東区台東4-18-7 シモジンビル5F
〒110-0016
Tel.03-3832-6381



<http://www.salat.co.jp>

2022年3月 北大を去られた先生方から



左から平本前研究院長、長谷川先生、園先生、米山先生

園 信太郎教授の略歴と先生からのコメント

1975年3月に神奈川県立湘南高校を卒業され、同年4月に東京大学理科IIに入学。以来9年間逗子から東大まで片道2時間の通学を続けられました。1984年8月同大学院理学研究科博士後期課程を退学され、北海道大学経済学部、教養部助教授(兼任)として赴任されました。当時の学部長は是永純弘先生でした。当時の兼任には吉野悦雄先生、牛山敏二先生、平子友長先生がいらっしゃいました。10年間教養部で経済学部のためがんばりましたが、1995年に教養部が廃止され、経済学部だけの所属になりました。2002年に教授となり2022年3月末で退職されました。

先生からのコメント

「レナード・ジミィ・サヴェジは、ブルーノ・デ・フィネティの主観主義とジョン・フォン・ノイマンの形式主義とを融合させた天才である。しかし彼は自己宣伝はしなかった。思うに、学徒の本務とは真理の探究である。それは老若男女を問わない。真理の探究なのだ。諸君もどうかこのことは忘れないでほしい。幸あれ。」

長谷川 光先生から

3月末に退職して、1ヵ月半が経とうとしています。退職時に何人かの方から「退職おめでとう」という趣旨の言葉を戴いたのですが、そのときはそれほどめでたいという実感が湧いてきませんでした。確かに約30年間の北大での教員生活が恙なく過ごせました。このことは学生を含めて大学関係者や家族のおかげであり、感謝の気持ちはあったのですが、めでたいとは少し違う淡々とした気分でした。昨年度までの科学研究費の報告書を書くなどのやり残した仕事が残っていたからかもしれません。科研費の報告書を書くことは研究を支援してもらった者の義務なのですが、既に終了した仕事をなぞるような作業で結構苦痛が伴います。その報告書もやっと書き終え、何とか締め切りに間に合わせることができました。やり残した仕事が一段落した現在では、このような書類書きに忙殺されることもなく、また、今までは必要に迫られて読んでいた雑誌や書籍をアウトプットを気にせず

にのんびりと読むことができます。これは存外の幸福感を与えてくれますので、退職に伴うめでたさを実感できます。

退職して年金生活に入りましたので、これからは組織や仕事に気をを使うことなく、過ごしていきたいと考えております。それにしても、やっと書類書きから解放されたのに、同窓会報にこのような拙い文章を書かなければならないとは皮肉なものです。(2022年5月15日)

北大を退職するにあたって

米山 祐司

今回で3回目の北大卒業となる気がします。1度目は学部を卒業したとき、2度目は大学院と助手を経て他大学に就職したとき、そして3回目が今度の退職です。

私は同窓会の会員名簿では昭和56年卒業となっていますが、入学は昭和55年卒業の年度です。1年留年しています。入学直後から部活動に専念し、親からは「おまえは経済学部ではなく山スキー部卒業だ」といわれていました。それでも5年目にはしっかり授業に出ました。継続して授業に出てみると、なるほどよくわかり、面白い。成績評価が厳しいとの評判の白井孝昌先生の国民所得論や関口恭毅先生の情報処理論なども5年目の履修です。ミクロやマクロの経済学をこのころになってようやくともに勉強してその面白さに感動しました。また、情報処理論ではFortranのプログラムをパンチカード(時代を感じます)で走らせるのに熱中しました。その頃の思いもあり、学部で授業する側になってからは授業に出ると「お得」となるように授業をしてきたつもりなのですがいかがだったでしょうか。

大学院に行くとははじめは思ってもいませんでした。ゼミとして選択したのは会計学の早川豊先生でした。先生は、授業もゼミも熱く語ってくれるのですがよくわからない、だけど面白そうだということで惹かれました。大学院での1対1での膨大な英文資料読み込みや院生としてのゼミへの参加は知的刺激に満ちた時間でした。会計学は簿記検定など資格試験と関連して取り上げられることが多いのですが、その時代の社会・経済や企業行動と密接に結びついており、単なる「お会計」ではないおもしろさがあります。

経済では2005年に大学院に会計専門職大学院(AS)を新設しました。このASは今までの論文を書くことを目的とする大学院ではなく専門職を養成することを目的とする大学院です。その設立時に北大に戻りました。会計の世界は世紀の変わり目から大変動期を迎えましたが、授業でもこの新しい時代の会計を反映してきており、教える方にとっても大変刺激的な経験であったと思っています。

2004年の台風で構内ではずいぶんとエルムが倒れてキャンパス風景が少し変わっていましたが、それよりも大学院重点化による教育の力点の置き方の変化に驚きました。経済でも修士課程の学生、特に留学生が増えてきています。世界の中の北大も当然重要ですが、将来の日本のために、これから学部生を大事に育てていく北大であって欲しいと感じています。

教員が語る

小杉雅俊先生
(平成20年卒)

冷暖自知

2021年9月に着任しました小杉雅俊です。専攻は管理会計で、会計専門職大学院を中心に、経済学研究院・経済学部で研究・教育に邁進する日々を送っています。学部から博士課程までお世話になった経済の校舎に教員として戻り、感じるのは学生の強さです。新型コロナウイルス感染症に伴う社会状況で得られた経験を自分の武器にしてやろう、自分の個性にしてやろうとする貪欲で前向きな意志を感じる機会が多々あり、自分自身も身の引き締まる思いです。

この同窓会報や、本コラムをお目通しいただいている会員の皆さまは、何処かでご自身の大学生活を思い出しながら楽しんで読まれているのではないのでしょうか。その景色と、今時点で在籍している学生が見ている景色は、語弊を恐れずに言えば大きく異なると思います。オンライン環境での講義受講や、感染症拡大を防ぐ目的での各種方針やルールの徹底、特に飲食を伴う会合の制約であったり、部活・サークルなどの一部活動自粛に対して、経済の学生たちは真摯に取り組んでいます。それが、大学生活の理想像として一般的に思い浮かぶ何らかのイメージとは異なることも、彼らは自覚しています。そんな中で、懸命に自分を磨き、真剣かつ必死に努力しています。3月に、大学院生活の多くをオンライン環境で過ごした会計専門職大学院の修了生が「オンラインで友達になって、修了式であらためて同期と会って話をしました。色々

あった2年間だけど、良かったと思います」と話してくれました。私は、彼の発言を事あるごとに鮮明に思い出します。その逞しさには頭の下がる思いです。

4月に、学部新入生の副担任を担当しているご縁で、本学の学生相談室カウンセラーの方々の話を拝聴する機会があり、その際に本学の学生は「自分に厳しく向き合いすぎる傾向」があると伺いました。こんなことを自分で解決できないようではダメだ、そんな責任感の強さから、様々な問題を一人で背負い続けてしまう。学生の強さや逞しさにばかり目を向けていては駄目だと反省しました。この社会情勢が私たちに問いかけているのは、私たちの絆の強さだと思います。会員の皆さまにおかれましては、ウィズコロナの環境で北大経済で学んだ卒業生たちや、その経験をした今の学生たちと社会の中で出会う機会がありましたら、たくさん話をさせていただくことをお願い申し上げます。価値観の違いが個性としての強みになるように、彼らは今の体験を得難い経験と位置付け躍進していくことでしょう。その経験を武器にする過程に、人生の先輩である同窓会員の皆さまとの絆が必要になるのではないのでしょうか。

本年度より、本学も対面形式の授業への移行に向けてシフトし、私たちは感染症対策を徹底しながら、これまでのキャンパスの風景にできる限り近づけようと頑張っています。その中で私自身は、研究とは何なのか、それを伝えるとはどういうことなのかという根源的な問いに、遅くとも真剣な学生たちと向き合いながら改めて格闘しています。悪戦苦闘の日々ですが、微力ながら全身全霊で挑んでいく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

卒業生の皆様へ 「北大みらい投資プログラム」へのご協力のお願い

皆様からのご寄附は、苦学生の修学、海外留学、特定の研究、部活・サークル活動など、皆様のご指定される用途に使用いたします。
後輩学生へのサポートとして、卒業生の皆様からのあたたかいご支援をいただきたく、心よりお願い申し上げます。

4つのプログラムメニュー

4つのメニューから、サポートしたい取り組みを指定してご寄附いただけます。



給付型奨学金

- 進学サポート奨学金
- 修学継続サポート奨学金



課外活動等支援資金

- 運動部・文化系サークル支援(個別指定可能)
- サークル会館、体育館、グラウンド整備への支援 等



海外留学・インターンシップ等資金

- 海外協定校等派遣・海外語学研修への支援
- 短期留学・研修・国際インターンシップへの支援 等



使途指定資金

- 特定の学部等への支援
- 特定の研究分野への支援 等

寄附方法



PCから
北大フロンティア基金HPIにアクセスして下さい。
<https://www.hokudai.ac.jp/fund/projects/#mirai>



スマホから



北大みらい投資 |

検索

web フォームに必要事項をご入力いただき、ご寄附またはお問い合わせが可能です。

「クレジットカード決済」
「郵便振替・銀行振込」
「コンビニ決済」が選べいただけます。

お問い合わせ先

北大フロンティア基金事務局

〒060-0809
札幌市北区北9条西6丁目
北海道大学百年記念会館内
TEL 011-706-2017
FAX 011-706-2010
E-mail kikir@jimu.hokudai.ac.jp
URL <https://www.hokudai.ac.jp/fund/>

継続寄附のご案内

クレジットカード決済により、継続寄附(毎月・年2回・年1回のいずれかの引き落とし)をご利用いただけます。また、お申し込み時に会員登録いただくと登録内容の修正・解約などがインターネットで随時行えます。

— 同窓生の近況 —

酒井ゼミOB読書会について

渡辺 敏昭 (昭和52年卒)



平成21年1月に酒井ゼミ北海道同窓会を開催。会場は札幌全日空ホテルで約20名出席。その席上で、飲み食いだけの会でなく何か勉強会をやったらどうか、との提案があり、有志6名で「読書会」を開講することとなった。事前の打ち合わせで①隔月開催、②コメンテーターは輪番

で課題本を選定、③ジャンルは経済学に限らず、歴史や社会などにも幅を広げる、などを確認。第1回は平成21年4月開催。以降令和2年2月まで61回開催。その後、コロナの蔓延により約2年間中断。そろそろ再開に向けて調整中です。なお、酒井ゼミOB読書会の履歴・懇談の様子は酒井ゼミのHPで閲覧できます。「husakaisemi」で検索してみてください。

ところで、第53回の読書会で課題本として採用した「捨てない未来はこのビジネスから生まれる」という本で紹介されている日本環境設計(株)という会社がすごいことになっています。古着の8割はポリエステルで、2割が綿ですが、この会社は綿からバイオエタノールを抽出し、ポリエステルは分子レベルで再生する技術を開発しています。既に商業生産体制に入っており、このリサイクルは永続できます。

まさに究極のSDGsです。なおこの会社は社内に「地球環境防衛軍」を設置しました。私共も早速、同志と共に「札幌支部」を設置いたしましたので取りあえずご報告まで(入隊者は約60名、市議会議員から高校生まで多種多彩)。

マサチューセッツ大学に移籍して6年

吉原 直毅 (平成2年卒)



1983年3月のカール・マルクス没後100周年記念の時期に、経済学という学問の存在を知り、その後結果的に北海道大学経済学部で学ぶ事になった。高校時代からマルクス、エンゲルスなどの古典を読みふける当時の時代に稀な生徒だったが、人生最初の経済学の講義を教養部1年の夏

学期に、当時若手の助教授だった佐々木隆生先生から受講した。古典派、マルクス派、ケインズ派、新古典派の経済理論を自由自在に語る佐々木先生の独創的な講義スタイルに強い印象を受け、その後の自分の人生を大きく決定づけた。

学部時代は『資本論』など、マルクス経済学の古典を中心に勉強していたが、大学院は一橋大学経済学研究科に進学し、厚生経済学と数理的マルクス経済学の研究で博士論文を纏めた。以降、大阪大学、北海道大学、一橋大学で大学教員として勤めた後、2016年2月から米国のマサチュー



セツ大学アマースト校（UMass Amherst）の経済学部に移籍した。

UMass Amherst はあのクラーク博士が札幌農学校を辞して米国帰国後に学長として勤めた大学であり、北大にとっては最も重要な、長年にわたる協定校である。この経済学部は、米国のベトナム反戦運動の時代に始まったラディカル・エコノミクス運動の発祥地であり、急進的政治経済学的世界的な研究拠点として知られている。その大学院生たちからの数理マルクス経済学の研究指導者を必要とする声もあって、自分に移籍の機会が巡ってきた次第。UMassに移籍してちょうど6年目を終えたところだが、この間に3名の東アジア圏の大学院生を研究指導し、2名は博士号を取得して卒業、その後中国の人民大学と南開大学に職を得て、この分野の次世代を担う研究者として活躍している。

自分はUMassの学期期間中はAmherstのアパートで過ごす、休み期間中は帰国して、国立市の自宅で過ごすという日米往復の日々を送っている。20年度からは一橋大学経済研究所にも特任教授として復帰した。この5月から9か月程、UMassでサバティカルを取れたので、今年の秋は日本で過ごす予定だ。久しぶりに日本の秋の味覚を味わえるだろう事を楽しみにしている。北大のホームカミング・デイにも初めて参加できそうだ。

公認会計士志望から 大学教員へ

角 田 幸太郎 （平成15年卒）

佐賀県出身の私が雪に憧れて北海道大学に入学したのは1999年4月。当時の目標は「公認会計士になること」でしたが、23年経った現在、熊本学園大学大学院会計専門職研究科の教授として「公認会計士・税理士の養成」に取り組んでいます。

私が研究者（大学教員）の道に進むことができたのは吉見宏先生との出会いのお陰です。大学院修士課程には公認会計士試験の勉強継続を目的として進学しましたが、日々の授業の予習・復習に真剣に取り組むうちに「研究者って良いかも？」と閃き、修士1年の夏に進路を変更し、大学院博士後期課程への進学を決意しました。私の心変わりを吉見先生は快く受け入れて下さり、研究者養成のための熱心なご指導・ご鞭撻を賜りました。

「吉見先生の下で学んで研究者となりました」と自己紹介すると、会計監査論や公的部門の会計を研究しているのかと思われがちですが、私は、大学院修士課程在学時から一貫して、英国プロサッカークラブの人的資源に着目した会計研究に興味本位で続けてきました。人があまりやっていない分野の研究でしたし、他の人に認められることを期

待しての研究ではありませんでした。しかし、ある時著名な先生の目に留まって2020年9月の日本会計研究学会では統一論題「人的資源会計」の報告者の一員に抜擢されました。また、2020年10月に初めての単著『プロサッカークラブのマネジメント・コントロール・システムーオックスフォード・ユナイテッドFCの事例ー』（同文館出版）を上梓し、日本体育・スポーツ経営学会から学会奨励賞を受賞しました。

39歳まで講師でしたが、2021年4月に41歳で教授に昇任しました。「何より、自分が面白いと思える、関心がある研究ができなければ、研究者は務まらない」という吉見先生の柔軟な養成方針の賜物だと、感謝してもしきれません。北海道大学で培ったフロンティア精神を抱いて、今後も我が道を邁進していく所存です。



わが半生

篠 原 麻 希 （平成21年卒）



私が憧れの北海道大学に入学したのは1浪した後の2005年のことでした。学生時代のことと言えばゼミと中国留学しか記憶にないのですが、どちらも私を形成する大きな要素となりました。

私は「勉強したい!」という意欲だけで肥前ゼミの門を叩きました。明らかに場違いな私を、肥前洋一先生と優秀な仲間たちはやさしく迎えてくれました。ゼミを通して、私は経済学の奥深さと「いく

く

ら勉強してもわからないことはわからない。でもわかる人はたくさんいるし、わかっているふりをしている人もたくさんいる!？」ということを知りました。

卒業後は「お金が集まるところに人は集まる！北海道と中国の懸け橋になりたい！」と思い、北海道銀行に入行しました。（今は、情熱があるところに人やお金が集まるのだと思っています。）銀行では社会人としての在り方や接遇、金融業の厳しさを学びました。銀行と支えてくださったお客様への感謝を胸に9年で卒業、2018年からはジブラルタ生命保険で働いています。お客様のお金にまつわる不安を解消するお手伝いをし、ともに未来を描き歳を重ねるパートナーとしてお選びいただく、そんな仕事にやりがいを感じています。

プライベートでは、ゼミの先輩の父上（元技術科教員、現木工職人）に弟子入りし、北海道を代表する木工職人を目指しています。しかし、木工制作というのは案外お金がかかるもので、お金のことを考えず制作活動に没頭するため日々所懸命働いています。しばらくは木工職人見習いと、それを支えるパトロンの一人二役で頑張っていきたいと思っています。

高井ゼミでの成長

千葉舜平（令和2年卒）

2017年から約3年間（交換留学の影響で1年間、ゼミに残留）、高井ゼミでは多くのことを学ばせて頂きました。小論文WS、ディベート、マニラ／デラサール大学への交換留学、そのどれもが現在の私の血肉となっております。

その中でも特に印象に残っているのは交換留学。現地大学での授業に加えて、課外活動の一環として現地／サッカーチームの活動にも参加させて頂きました。そこで出会った商社マンに魅了され、私も商社の道に足を踏み入れることに。高井ゼミに入っていなければ商社／海外での仕事に関心を持つことは無かったと思いますので、新たな道を示して下さい高井先生には感謝の気持ちで一杯です。また、先輩・同期・後輩にも恵まれたゼミ生活でした。高井ゼミには優秀且つフレンドリーな方が多く、共に学び共に遊んだ日々が懐かしいです。社会人になった今でも、ゼミ生の活躍には多大なる刺激を受けております。高井ゼミで得た学び、人間関係を大切にしながら、今後の人生を生きていきたいと思っています。



現地のサッカーチームで仲が良かった他留学生と（左が自分です）

北海道大学経済学部同窓会

では同窓生のみなさまからの同窓会報に掲載する企業広告を募集しております
お気軽にあなたの会社の広告を掲載してみませんか？
みなさまよろしくお願いいたします！

北海道大学東京同窓会から

わが母校北大を想う

横 田 浩 (昭和60年卒)



この度このような機会を賜り、お叱りを受けそうな学生時代を恥を忍んで振り返って見たいと思います。私は札幌に生まれ育ち、札幌旭丘高、札予備を経て'81 (S56) 年に北大文Ⅱに合格しました。北大を志望したのは小6から始めたアイスホッケーを当時インカレ上位だった北大でやるためでした。経済学部を志望したのは農学部にあった兄(現北大副学長)から、クラブやるなら経済はいいぞ、授業屋で終わるし就職もいいからな、と言われたのがきっかけです。北大に入ってから勉強そっちのけでクラブ活動に没頭し、道インカレ予選、七帝戦札幌大会などで優勝した際の応援団のエールと都ぞ弥生の大合唱は今でも忘れられません。また、学外では道アイスホッケー学生連盟委員長としてアイスホッケー連盟と連携、時に対立しながら組織・大会運営をリードする機会を得たことはその後の大きな糧となりました。

学業の方は2年後期学部移行時に合宿中で、久しぶりに学校に行くとゼミ選択締切が終わっており、クラブの先輩の伝で国際経済学の所ゼミに頼み込んで入れて頂きました。4年生になっても学部の40単位を取得してない有様で、そうやって初めて真面目に講義を受けゼミの勉強をしたという具合ですので全く出鱈目な学生でした。ゼミではヘクシャー＝オリーン理論を原書で輪読し国際経済の一般

理論を学びました。一般講義では富森先生の工業政策や夏休みの集中講義(外部講師による産業政策)が印象に残っています。日本はモノ創りに強みがある筈との思いを強くしたのはこの頃でした。また、卒業を控えて「働くとは」ということを真剣に考える機会にもなりました。一人も先輩のいないこの会社(株式会社 トクヤマ)に入社した背景としてこの時期が大きく影響していると思います。

今になって思うと、当時の日本経済は右肩上がり、学生は伸び伸びと人格形成に努め、専門は社会に出てから、という大らかな時代でした。特に北大はその傾向が強かったと思いますが、そのおかげと申しますか、社会に出てからはギアを切り替え個性豊かに信念をもって毅然と仕事にチャレンジし成果を上げてきた卒業生が多いと感じます。

最後に、これからも母校北大は東大化・官僚化することなく気骨ある人材を世に送り出し続ける大学であり続けてほしいと切に願うとともに、日本再興につながる会社経営・産業の改革を進めていかねばと決意を新たにす次第です。この度は、このような機会を頂き誠にありがとうございました。

北大経済学部法学部対抗ゴルフ大会, 3年ぶりに開催

6月25日(土)39回目の「伝統の一戦」が3年ぶりに開催されました。

コロナ拡大の懸念が燃り、かつ参院選が近づく中、参加人数の減少が予想されましたが2名の初参加者含め16名(経済10, 法6名)が札幌エルムカントリークラブに集まりました。参加者の日頃の行いを反映してか絶好のゴルフ日和に恵まれ、例年どおり真剣な中にも和気藹々のプレーが繰り広げられました。

今年の団体戦は残念ながら僅差で法学部に譲りましたが、「飛び賞」を殆ど独占するなど経済学部らしさは十分発揮(?)できたようです。

クラブハウス内での懇親会では各賞表彰と交歓が行われ、最後に最年長の野崎恒義さん(経済・S. 36卒)より「来年も元気に会いましょう!」とのご挨拶を頂き閉会となりました。

また参加者全員にご家族から好評の上川管内当麻産有機米(農家直送)が配られました。

このゴルフ大会も来年は第40回を迎えます。これまでも会報やホームページでOB, OGに広く呼びかけてきましたが、来年

は多くの参加を目指そうと法学部と話し合っています。団体戦は上位者数名の戦いで、そのほかは楽しくプレーするのをモットーにしています。ゴルフ初心者や女性の皆さん也大歓迎です。

今のところ来年も6月最終週の土曜日に行う予定です(詳しくはHPをご参照ください)。本州在住の方も恩師や旧友との再会を兼ねてご参加ください。お仲間と一緒に組で回っていただくのもOKです。是非奮ってご参加ください。



ぜひ、ご参加ください

今年もオンラインですがホームカミングデーが開催されます。みなさま、是非ご参加ください。

北海道大学ホームカミングデー 文系4部局合同企画

講演会

北海道 開拓と 集治監

講師：櫻庭 誠二 氏
(月形樺戸博物館名誉館長)

日 時 令和4年9月24日(土) 14時～16時

開催方式 Webex Webinars によるオンライン開催

参加費無料
申込不要

参加方法等は北大HP等でお知らせいたします。

【お問い合わせ】 法学研究科・法学部庶務担当 TEL：011-706-3118 E-mail：shomu@juris.hokudai.ac.jp

同日に**経済学部同窓会総会**を開催いたします。

日時：9月24日(土)午後4時半から約1時間

出席希望の方は9月16日(金)までに事務局まで「氏名、卒業年、住所、メールアドレス」をメールまたはFAXにてご連絡ください。人数を把握した上で、経済学部の会議室で開催予定です。(人数が多い場合はオンライン開催になる可能性がございます)

事務局 メールアドレス dosokai@econ.hokudai.ac.jp TEL&FAX 011-706-4113



名刺広告

パリアフリー本の子ども図書館
公益財団法人 ふきのとう文庫

代表理事

高倉 嗣昌

(経 昭和36年卒)

札幌市中央区北6条西12丁目8-3
TEL 011(262)48339

中川原税務会計事務所

税理士

中川原 慶憲

(経 昭和41年卒)

札幌市中央区南1条西1丁目3番地
新築ビル7階
TEL 011(271)8462

札幌監査法人

代表社員 公認会計士

高野 一夫

(経 昭和45年卒)

札幌市中央区南1条西1丁目新永ビル
TEL 011(261)7512

弁護士

吉川 正也

(経 昭和46年卒)

札幌市中央区大通西1丁目南大通ビル4階
TEL 011(261)6677

上野公認会計士事務所

公認会計士

上野 昌美

(経 昭和47年卒)

札幌市中央区南2条西9丁目1-25
TEL 011(522)8170

遠藤公認会計士事務所

公認会計士

遠藤 昭一

(経 昭和48年卒)

札幌市東区北11条東18丁目三番三三
TEL 011(783)8123

弁護士

工藤 倫

(経 昭和50年卒)

札幌市中央区北5条西12丁目1番地
ベルックス北ビル B館2階
TEL 011(261)5275

田中利男税理士事務所

税理士 中小企業診断士

田中 利男

(経 昭和50年卒)

札幌市中央区南3条西6丁目3-2
南3条グランドビル601
TEL 011(261)2061

株式会社ターフテック

代表取締役

宮本 裕司

(経 昭和50年卒)

北広島市大曲工業団地五丁目一番地二
TEL 011(377)4011

岩本敏美税理士事務所
(株)イワモトマネジメントサービス

税理士・代表取締役

岩本 敏美

(経 昭和53年卒)

〒007-0834
札幌市東区北34条東7丁目番20号 イワモビル2階
TEL 011(214)1176

不動産鑑定士 宅地建物取引士

目黒 健児

(経 昭和54年卒)

メタロオファイン株式会社 代表取締役
札幌市中央区南1条西6丁目14番地
大友ビル4階(南1条通沿い南側)
TEL 011(538)5555
不動産の鑑定評価と仲介

野村不動産ホールディングス
株式会社

取締役会長

永松 昌一

(経 昭和57年卒)

北海道大学東京同窓会 会長
株式会社 トクヤマ

代表取締役社長

横田 浩

(経 昭和60年卒)

東京本部
東京都千代田区神田1-7-5 フロントプレイ秋葉原
TEL 03-5207-2500

監査法人ライトハウス

代表社員 公認会計士

北村 好孝

(経 平成4年卒)

札幌市中央区南1条西11丁目コンチネンタルビル
TEL 011(232)7102

監査法人ハイビスカス

代表社員 公認会計士

堀 俊介

(経 平成6年卒)

札幌市中央区北4条西5丁目1-4
大樹生命札幌共同ビル8階
TEL 011(826)5265

吉田大吾税理士事務所

税理士

吉田 大吾

(経 平成11年卒)

札幌市中央区南3条西12丁目320-8
札幌森ビル313階
TEL 011(206)4236

税理士法人北前会計

統括代表社員・CEO(公認会計士・税理士)

中村 泰道

(経 平成12年卒)

札幌市北区北7条西220 NCO札幌駅北口2階
TEL 011(299)2624
Email: y-nakamura@kianae.or.jp

池田裕一公認会計士事務所

池田 裕一

(経 平成15年卒)

札幌市中央区南2条西5丁目10-2
サンワイド南2西5ビル4階
電話 011(231)5240

牧田税理士事務所

税理士

牧田 秀崇

(院経済 平成22年卒)

苫小牧市音羽町1丁目8番6号
TEL 0144(34)0385
URL: http://www.iwamaki.com

名刺広告を募集します お申し込みは同窓会事務局まで

TEL & FAX (011)706-4113
Email dosokai@econ.hokudai.ac.jp

おかげさまで、104年。伝統の美味しさをご一緒に。

銀峰
味淋焼かまぼこ

献上銘牌



創業大正七年／札幌・二条魚町

蒲鉾の かねひこ

一般社団法人 日本かまぼ協会 副会長
代表取締役社長 中島 代博
(平21年 修士卒)

<https://www.kanehiko.jp>



札幌農学校が生んだ、幻の玉ねぎ「札幌黄」を練り込んだ揚げ蒲鉾「札幌黄たまねぎ揚げ」も好評発売中です。



賜 東宮御所献上之栄
農林大臣賞
厚生大臣賞
名誉・栄誉大賞

協賛金(学生支援金)ありがとうございました

「協賛金」は在学中の学生に対する勉学や研究活動の支援・環境の整備改善・就職セミナー・学生の物資支援などにつかわれます。一般会費とは厳正に別管理とし、学部長と使途を協議して有効に活用しております。

今後とも母校後輩へのサポートをよろしくお願い致します。

ご賛同頂いた皆様は下記のとおり(敬称略、カッコ内は卒年)

2万円 一戸 慧 (S.28), 西川平治 (S.36), 田中利男 (S.50), 宮本裕司 (S.50), 鈴木正司 (S.51), 鞠谷仁士 (S.55)

1万円 田村久治 (S.30), 太田 規 (S.34), 松本範男 (S.36), 伊藤(松原) セツ (S.37), 小亀慶曙 (S.37), 菅原 真 (S.37), 井上晃一 (S.38), 永井仁一郎 (S.38), 近藤勝洋 (S.38), 西本紀夫 (S.38), 佐藤時雄 (S.42), 牟禮研吾 (S.42), 佐藤博昭 (S.43), 笹 光一 (S.44), 西村 求 (S.44), 速水邦彦 (S.44), 高野一夫 (S.45), 武田 博 (S.46), 奥村五百子 (S.47), 濱向昭一 (S.47), 榎本英雄 (S.47), 湯川康史 (S.47), 塩谷哲実 (S.47), 酒井和人 (S.48), 和久井俊秀 (S.48), 北浦和憲 (S.51), 陣谷義直 (S.51), 鈴木 満 (S.51), 目黒健兒 (S.54), 津村 晶 (S.58), 森部 章 (S.58), 山本真司 (S.60), 長田克久 (H.6), 石田(梅田) 聡子 (H.12), 中村宙正 (H.12), 黒阪健吾 (H.19), 藤木絵里子 (H.20), 並河史朗 (H.24), 小林航也 (H.30), 高橋美帆 (R.3), 村岡健太郎 (R.3)

3千円 高橋隆司 (S.28), 青木信人 (S.50)

皆様から頂いた協賛金(学生支援金)の今後の企画について

A. 北海道の経済を活性化させるための地域経済活性プランを 経済学部生、院生から募集!

テーマ 北海道経済: コロナの時代をいきる,

経済を活性化させるために何ができる!?

「みなさんが考える、北海道の活性化に寄与するプラン、北海道の強みを生かしたプラン、北海道の弱みを強みに変えるプラン等々、北海道の経済を活性化させるための地域経済活性プランを募集します」

プランが評価された個人、チームに最優秀賞、ナイスアイデア賞、グッドプラン賞の学習支援金が授与されます。(評価には卒業生の協力をお願いします)

B. 平本健太教授の授業を使ったOB・OGによる出前講座(後期) = 「北大経済同窓生の最前線」

今年は4名の卒業生に依頼。今後は人数を増やし単独の「授業」を目指していきます。

皆様の熱い協力とご支援が必要です。何とぞよろしくお願いいたします。

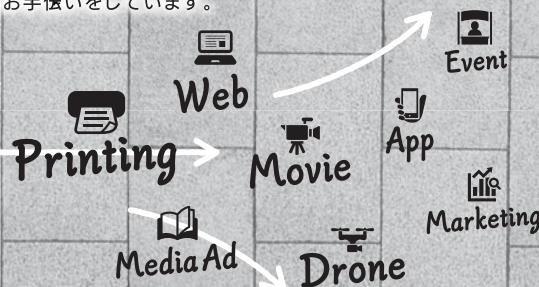
令和4年6月期収支報告書

	項 目	金 額(円)	備 考
収入の部	前期繰越金	10,331,241	
	会費収入	2,427,000	年会費, 終身会費
	協賛金収入	536,000	
	広告収入	324,000	会報37号
	総会収入	0	
	その他収入	9,106	
	計	13,627,347	
支出の部	事務費	632,350	事務局実費
	総会費用	0	
	会報作成費	305,250	会報36号
	助成金	35,000	優秀論文賞
	協賛金からの支払い	0	学生への物資支援
	通信費	521,750	発送代
	消耗品費	0	プリント関連
	印刷費	0	封筒等
	旅費	1,500	
	雑費	0	コート等備品
	支払手数料	53,247	振込手数料負担分
	計	1,549,097	
	収支差額	12,078,250	次期繰越金に充当

決算は7月11日付けで高野一夫監事により決算報告書が正確かつ適正に処理されたことを認める「監査報告書」を受領しております。

すべてはお客様のために

わたしたち株式会社須田製版は大正12年に創業。今年で99年目を迎える企業です。モノクロームの写真製版からスタートし、約1世紀にわたる時代の変遷とともに時代に合わせて新たな挑戦を続け、総合印刷業から総合情報業へと発展してきました。現在では印刷はもちろんのこと、お客様のご要望に沿って業務内容を進化させ、WEB、映像、イベント、マーケティングなど多彩な方法でお客様の伝えたいことを形にするお手伝いをしています。



TOTAL PRINTING

株式会社 須田製版

<https://www.suda.co.jp>

[札幌本社]

〒063-8603

札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8

TEL.011-621-1000

FAX.011-621-1500

旭川支社・釧路支社・苫小牧支社・東京支社・
滝川営業所・北見営業所

グループ会社 有限会社 エグザル

北海道の
印刷物を
webで
読む。



北海道内のすべてがそろう「電子書籍」ポータルサイト
「ホッカイドウ イーブックス」

Hokkaido ebooks
www.hokkaido-ebooks.jp

会費のお願い

年会費 3,000円
終身会費 30,000円

振込方法は郵便局、コンビニ、スマートフォンにて同封の「払込取扱票」にてお願いいたします。

なお、協賛金（学生支援）は郵便局のみとなりますのでご注意ください。

同窓会活動は会員からの会費収入によって成り立っております。現役の学生を同窓会に迎えたことで財政的には一時的には余裕のある状況となりましたが、トータルでみるとまだまだ厳しいと言わざるを得ません。どうかご理解をいただき年会費（3,000円）の継続入金と終身会費の納入をお願い申し上げます。

協賛金は一口1万円とし、その使途は原則全額を現役学生への支援に充てます。従来から行っている卒業を祝う会や優秀論文への寄付増額にとどまらず、ゼミ研究・就職活動の支援に使用します。

他学部では同窓会による「寄附金講座」など新設する動きもありますが、身の丈に合った経済学部らしい有効策を、スピード感を持って具現したいと考えております。

なお、協賛金を納めていただいた方のご芳名を同窓会報に記させていただきます。

また、一昨年会報で既報の通り、終身会費納入者以外で直近5年間一度も年会費（3千円）を納めていただけない会員に対しては、会報の送付は行いません。

どうかご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

編集後記

- また今年もコロナの流行は収まりそうもありませんが、制限のない状況下で何が正しい行動なのか、迷いながら進んでいる、という心持ちです。会員のみなさまもどうぞ感染予防に留意されてお過ごし下さい。
- 大学は対面授業が主となってきましたが、状況によってはオンラインを活用し、教員と学生たちに負荷がかからないよう調整しながら授業や試験が行われています。
- 表紙にもありましたように永年同窓会の会長を務められてきた上野会長が退任されました。現在は副会長の岩本さんが代理を務められています。次の同窓会報には新しい会長のご挨拶が載ることと思います。
- 協賛金（学生支援金）の欄でも書きましたが、新たに学生支援として「地域経済活性プラン」の募集を始めました。たくさんの学生の方々に応募していただき、皆様から協賛頂いた支援金を学生たちに学習支援として届けていきたいと考えております。「出前授業」も就職支援に繋がると考えています。来年に向けて是非出前授業に手をあげていただける卒業生がいらっしゃいましたら、こちらも事務局までご連絡ください。
- 一昨年退職された小山光一先生が7月23日お亡くなりになりました。また改めて次号で追悼したいと思います。
- 事務局も2年目となりましたが、相変わらずのばたばたぶりで、なかなか「のんびりゆっくり」は遠そうです。同窓会室は月水金ですがオープンしておりますので、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。同窓会報の原稿も広告も随時募集しておりますので、どしどしお寄せください。
- 現在の同窓会は卒業した同窓生10,326名（亡くなった方を除きました）、学部同窓生785名、院生同窓生143名という構成になっています。

2022/8/5 記



(株)ブライダルは北海道大学経済学部同窓会の皆様の「結婚」を応援します。

44年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に北大校友の皆様には平成18年より「北海道大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「北大経済学部同窓会報」を見たとおっしゃってくだされば、校友の皆様は登録料100%OFFにてご入会頂けます。

北海道大コース 登録料 33,000円(税込)
100%OFF



1978年創業
株式会社 ブライダル

東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F

お問い合わせ (月曜定休) ☎ 0120-415-412

ホームページ <http://www.bridalvip.co.jp>

